

生徒指導提要

2023.5.27

第1部 生徒指導と基本的な進め方

第2章 生徒指導と教育課程

内容に沿って具体的な例をみんなで出し合えたらいいな。
最近、調子はどうですか？
「生徒のため」という大義名分で学校や教員のキャパ以上に詰め込まれた教育課程はどうにかならないものかな。

2.1 児童生徒の発達を支える教育課程

教育課程...学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画

→教育課程に基づき教育活動を実施

= 「授業」 = 学習指導の場 ← 生徒指導の働きかけも欠かせない

< 児童（生徒）の発達を支える指導の充実 >

- ① 学級・ホームルーム経営の充実、ガイダンスとカウンセリングで支援
- ② 児童生徒理解を深め、学習指導と関連受けた生徒指導の充実
- ③ 特別活動の要としつつ各教科でキャリア教育の充実
- ④ 個々の特性（個性）に応じた指導の充実

さっそく、具体的にどうしたら充実がはかれると思いますか。

2.1 児童生徒の発達を支える教育課程

○ 学習指導と生徒指導との関連を意識する

- ・ 自己存在感を感じる、自己選択や自己決定を促す、
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。

↑発達支持的生徒指導の考え方を生かそう

○ 学級の個別指導や集団指導の工夫

- ・ 教育目標や学級目標の方針に則して、学級経営を展開する
- ・ 共に認め・励まし合い・支え合う集団→自己指導能力
- ・ みんなで話し合い、みんなで決めて、みんなで協力して実践→自己有用感
- ・ 規範意識の醸成

⇒ 安心して自らの意見を述べる

発達指示的生徒指導とは？
安全・安心な学校づくり
魅力ある学校づくり、わかりやすい授業の工夫

2年生になると意見を言う生徒が少なくなるような気がするけど、それは学級の雰囲気なのかな？

2.1 児童生徒の発達を支える教育課程

- ・留意点

- ① 「この教育目標の達成に向けて協働したい」と全教職員が思えるような目標を設定すること
- ② 保護者や地域からの協力が得られるように目標の共有に努めること
- ③ 教育目標に照らしながら各教科などの授業のねらいを改善したり、教育課程の実施状況を評価したりすることが可能になるような具体性のある教育目標を設定すること。

焼津豊田中は「個性輝く」
具体性...？

2.2 教科の指導と生徒指導

○ 個に応じた指導の充実

- ・ 学習内容がわからない → 発達上の理由
- ・ 積極的に発言をしない → 友人関係での悩み

よっぽどのことがない限り、
しない。

○ 授業での生徒情報の収集

- ・ 授業者の主観的な情報を収集、さらに同僚や管理職による授業観察で収集。
- ・ 宿題、テスト、いじめアンケート、日記などの客観的な情報収集
- ・ 出欠席や保健室利用などの客観的な情報の収集
- ・ ICTを活用して情報を収集

これだけ、具体性がない。

○ 情報の分析

- ・ 学年部会、生徒指導部会、ケース会議

→ 複数の教職員による多面的な意見に基づく協議 → 連携・協働して実践

2.2 教科の指導と生徒指導

他国はどうしているのだろうか？
他国と比べて多忙になる原因なのかな。

○ 授業は発達指示的生徒指導の場

※教員が学習指導と生徒指導の専門性を併せ持つ日本型学校教育の強みを活かす

- ・ どの児童生徒もわかる授業、どの児童生徒にとっても面白い授業になるように創意工夫せよ。→指導の個別化、学習の個性化→個別最適な学びの実現
- ・ 間違いやできないことが笑われない、むしろ、なぜそう思ったのかという児童生徒の考えについて児童生徒同士がお互いに関心を抱き合う授業づくり
- ・ 自らの意見を述べたり、観察・実験・調べ学習などにおいて自己の仮説を検証し、レポートにまとめる→自ら考え、選択肢、決定する力の育成
- ・ 児童生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できる「居場所」づくり

2.3 道徳科を要とした道徳教育における生徒指導

- ・道徳が教科化されたのはいじめ問題などへの対応のため
- ・道徳教育と生徒指導はいずれも人格のよりよい発達を目指すもの
- ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養う。
= 生徒指導上の問題に対処できる実効性のある基盤
- 生徒指導→道徳科の授業の充実
 - ・児童生徒との信頼関係、生徒指導上の問題を題材にする、柔軟な座席配置やグループ編成
- 道徳の授業→生徒指導の充実
 - ・道徳科の授業で児童生徒の悩みや心の揺れ、葛藤などを生きる課題として取り上げる→生徒指導上の悩みを持つ児童生徒を温かく包み、指導効果を上げる。
 - ・問題解決的な学習、体験的な学習→実効性のある力が身に付く

2.4 総合的な学習（探究）の時間における生徒指導

・総合＝探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成→自ら求めようとする姿勢

＝生徒指導の「社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える」と重なる

- ・探究的学習：課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現＝自己指導能力
- ・難しい課題→学習状況に応じて教員が適切な指導を行う＝発達指示的生徒指導
- ・協働的に取り組む→学習活動が発展、課題意識の高まり→社会参画意識の醸成
- ・総合：自己の生き方を問い続ける＝自己実現を図りながら、自己の幸福と社会の発展を追求する（生徒指導）

2.5 特別活動における生徒指導

特別活動：集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して資質・能力を育む教育活動

→人間関係形成、社会参画、自己実現

○生徒指導の目的「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」に迫る学習活動

- ・「なすことによって学ぶ」という実践活動を通して様々なことを学ぶ
- ・多様な集団活動における協力し合う過程で互いを理解、尊重＝社会的自立
- ・様々な役割を受け持つ＝自己存在感、責任感を養う

2.5 特別活動における生徒指導

特別活動

- ①学級活動：課題を見出し、話し合い、合意形成→自主的・実践的な取り組み
- ②児童会・生徒会活動：問題の解決、計画の立案、運営→自主的・実践的
- ③クラブ活動（小）：異年齢の児童同士で協力、集団活動の運営→個性の伸長
- ④学校行事：体験的な活動→所属感や連帯感、公共の精神を養う
→生徒指導の自己指導能力や自己実現につながる力の獲得と重なる

○ 教師の役割（生徒指導中心の特別活動）

・特別活動の内容の特質や児童生徒の発達の段階に応じて、児童生徒による自発的、自治的な活動を重んじつつ、成就感や自信の獲得につながるような指導。

2.5 特別活動における生徒指導

<学級・ホームルーム活動の活動内容と生徒指導>

- ①学級・学校への参画➡話し合い、合意形成➡所属感や連帯意識＝社会の基盤
- ②生活や学習への適応と自己の成長・健康&③キャリア形成と自己実現
- ➡課題に気付く➡話し合い➡意思決定＝自己指導力の獲得
- ・多様な他者との協働➡実践的な態度＝発達支持的生徒指導の中核
- ・集団や社会の形成者＝キャリア教育➡キャリアパスポートの効果的な活用

2.5 特別活動における生徒指導

<児童会・生徒会活動、クラブ活動と生徒指導>

・異年齢集団活動➡広い関わりの中で協力し合って学校生活上の諸問題を解決
役割と意義

①異年齢集団を通して、望ましい人間関係を学ぶ

②大きな集団の一員として、役割を分担しあって協力し合う

③自発的、自治的な実践活動を通して、自主的な態度のあり方を学ぶ

注) 発達段階に応じた指導、例) 小低：実態を把握する、小高：リーダーシップ
中：生徒自身の自主的な活動の成果や可能性に期待する、

○ 学級活動との連携

・児童・生徒会の一員として自分の果たすべき役割などについて考え、決めたことに協力して取り組むなどの資質能力を身につける。

専門委員会からのアンケートなど、回収率のいいクラスと悪いクラスがある。

2.5 特別活動における生徒指導

< 学校行事と生徒指導 >

目標：全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

学校行事の特色

- ①学校生活を豊かな充実したものにする体験的な教育活動
- ②全校又は学年という大きな集団により人間関係を学ぶ教育活動
- ③多彩な内容を含んだ総合的、創造的な教育活動とする

他の学級、異なる学年との交流・体験的な活動

➡よりよい人間関係の構築、豊かで充実した学校生活づくり

例) 文化的行事、体育的行事、遠足（旅行）、集団宿泊的行事
配慮) 主体的に参加できるようにする

勉強が苦手な子の活躍の場
集団宿泊的行事はなくなっている？